

■展覧会名

DESIGNふたつの時代[60s vs 00s]

ジャパン デザイン ミュージアム構想

DESIGN  
ふたつの時代  
60s vs 00s

ジャパンデザインミュージアム構想

DESIGN  
ふたつの時代  
60s vs 00s

ジャパンデザインミュージアム構想

■開催趣旨

経済産業省の所管団体であるデザイン関連8団体は、1950年代から、それぞれの専門領域で活動を行ってきました。日本デザイン団体協議会(D-8)は、これら8つの社団法人が集まった唯一の協議会であり、8団体が個々の活動を基盤としながら、相互の領域を超えるデザインの課題に対応するために結成されています。わが国のデザインを担う8つの社団法人から成る「D-8」は、生産・消費大国の産業に供する「実践的な技」として展開されてきた「日本のデザイン」を、その構想・設計、実現・生産、受容・評価を結ぶ営為として再認識し、芸術・文化、歴史・民俗、ライフスタイル、テクノロジーなど、多様な視点で顧みる活動を推進しています。領域を超えて「作り手」が結集し、自覚的に「Japan Design」を追求しながら、より広い見地で次世代の豊かさを探る——近い将来には、総合的な「デザイン・ミュージアム」の設立を旨とし、デザインの本質を考えるための運動こそが、「ジャパン デザイン ミュージアム構想」です。

■概要

[全体テーマ]

全体を括る大きなテーマとして、「戦後日本のデザインは、どのように成立し、どこへと向かうのか？」が前提にあります。このことを、日本デザイン史の大きな「成長期」「変革期」に相当する「1960年代」「2000年代」に絞り、「作り手」自身が徹底的に精選した8つの領域(ディスプレイ、グラフィック、クラフト、インテリア、インダストリアル、ジュエリー、パッケージ、サイン)の作品群から再考することが、本展の狙いです。

[1960年代]

東京オリンピックの1964年(昭和39年)、日本万国博覧会(大阪万博)の1970年(昭和45年)を結節点とする1960年代は、高度成長の波に乗って工業化が進行し、これに立脚する消費文化とデザインが明るい発展をとげた時代です。その根底には、明治・大正年間、昭和戦前から戦後復興の1950年代に起こった社会とデザインの事象が横たわっています。「Japan Design」の模索については、それまでの復古・折衷主義的なスタイル、芸術・精神文化論的な展開を経て、1950年代に「ジャパニーズ・モダン」の提唱がありました。その後、「Japan Design」が世界に羽ばたき、デザインの創造者と受容者、個人と社会が「同時代のデザインにおける新しい日本らしさ」を意識するようになったのは、ふたつの国家的イベントをメルクマールとする1960年代だった、としてよいでしょう。これがひとびとの生活に根を下ろし、クリエイター、メーカー、流通業界などの戦略となったのは、まさに1960年代の洗礼を受けてからのことです。このセクションでは、ハイライトとなる「東京オリンピック」「大阪万博」を中心に、伝統美とモダン・デザインの精神を結ぶ作品、デザイン的な視点に立つ工芸、メーカーにおけるインハウス・デザイナーの仕事、ひとびとの生活を一変したアイテム、平和と経済発展を象徴する事象などを紹介します。

[2000年代]

歴史家、文化人類学者、アーティストが考える「日本文化」とは異なり、「わたし」と「ひとびと」の「よりよい生活」を導き、時代感覚を映し出す「Japan Design」とは、いったいどのようなものなのでしょうか。これを「モノ」「事象」として生み出す営為でもある「Japan Design」は、今後どうなるのでしょうか。自分探しの1970年代、バブル経済で盛り上がった1980年代、情報化社会に突入した1990年代が、「同時代のデザインにおける新しい日本らしさ」の開墾・育成期とするならば、21世紀は、その開花期に相当します。しかし、クール・ジャパンの時代に台頭し、国内外を席卷しつつある「Japan Design」が、明日の社会に有益な実りを

もたらすものかどうかは未知数です。その評価は次世代に委ねられており、いまの「Japan Design」の作り手が、真の「デザイン・ミュージアム」を実現できるか否かも、その指標のひとつと考えられるでしょう。新しい産業・社会構造が確立され、これまでにない文化、デザイン、ライフスタイルが次々と立ち現れる「現在」を扱うこのセクションでは、地球環境を命題とするエコ・デザイン、すべてのユーザーを対象とするユニヴァーサル・デザインのほか、多様化をきわめる個人生活の志向性と豊かさに応えるデザイン、文化施設とデザインの今日的な出会いを紹介します。

[作品選定の方法] ふたつの時代の「対比」を象徴し、「日本人の生活」と深い関わりを持つ展示物を選ぶにあたっては、「わたし＝個人・家庭」「ひとびと＝社会」という「ふたつの視点」に基づいて、領域・協会ごとに作品を絞り込みました。この「2時代×2視点×8領域」というコンセプトと厳選作業は、デザインの本質について、作り手が「自ら」「ともに」考えることに役立ち、「ジャパン デザイン ミュージアム構想」の根幹に通じます。

■展覧会場

ミキモトホール: 〒104-8145東京都中央区銀座4-5-5ミキモト本店6階

■展覧会期

2010年9月17日(金)～28日(火) ※11日間

■開館時間

11:00～19:00

■休館日

9月22日(水)

■観覧料金

一般1,000円、学生500円 ※高校生以下は無料

■主催

日本デザイン団体協議会(D-8)

[構成社団法人名]

日本ディスプレイデザイン協会(DDA)、日本グラフィックデザイナー協会(JAGDA)、日本クラフトデザイン協会(JCDA)、日本インテリアデザイナー協会(JID)、日本インダストリアルデザイナー協会(JIDA)、日本ジュウリーデザイナー協会(JJDA)、日本パッケージデザイン協会(JPDA)、日本サインデザイン協会(SDA)

■特別協力

株式会社ミキモト

■協力

文化学院、紙パルプ会館

■助成

財団法人花王芸術・科学財団、公益財団法人野村財団

■後援

経済産業省

■協賛

D-8賛助会員・企業、関係個人・団体

■関連事業

①フォーラム「日本のデザインを60年代と現在、そのふたつの時代から考える、ジャパン デザイン ミュージアム構想」

[日時]

2010年9月17日(金)13:30～16:30

[会場]

銀座フェニックスホール: 〒104-0061東京都中央区銀座3-9-11紙パルプ会館2階

[講師]

展覧会報告: 橋本優子(宇都宮美術館主任学芸員、本展学芸監修者)

記念講演: 柏木 博(武蔵野美術大学教授、本展全体監修者)

パネリスト: 柏木 博、秋元 淳(日本産業デザイン振興会事業課)、浅香 嵩(日本インダストリアルデザイナー協会理事長)、宮沢 功(日本サインデザイン協会常務理事)ほか、司会＝橋本優子

[参加費・定員]

2,000円、150名(申込先着順)

# DESIGN ふたつの時代 60s vs 00s

ジャパンデザインミュージアム構想

②ワークショップ「デザインウォーキング・IN・GINZA —銀座で60s vs 00sというふたつのDESIGNを体感する—」

- [日時] 2010年9月21日(火) 13:30~17:00  
[集合場所] ミキモトアトリウム: 〒104-0061 東京都中央区銀座2-4-12 MIKIMOTO Ginza 2 5階  
[講師] ナビゲーター: 武正秀治(D-8セミナー/ワークショップ・チーム)  
学芸解説: 橋本優子  
地元視点の解説: 岡本哲志(法政大学サステナビリティ研究教育機構研究員/銀座研究家)  
[参加費・定員] 2,000円、30名(申込先着順)

## ■関連書籍

- [書名] 『DESIGNふたつの時代[60s vs 00s] ジャパン デザイン ミュージアム 構想』  
[監修] 柏木 博  
[編集・構成] 杉山 衛(デザイン史編集)、橋本優子、本田英郎(文化学院クリエイティブメディアセンター)、天野幾雄+木下勝弘(D-8広報・出版チーム)  
[執筆] 榊山紘一(印刷博物館館長)、柏木 博、杉山 衛、橋本優子、本田英郎、D-8メンバー  
[エディトリアル] 天野幾雄(CD)、木下勝弘(AD)、下田健斗(デザイン倶楽部=D)、近藤直樹+草谷隆文(D-8広報・出版チーム=広報・マネジメント)  
[版型・体裁・部数] B5判変形(H245×W182mm)、表紙回りを含み全160ページ(カラー144ページ+モノクロ16ページ)、4,000部  
[出版社] DNPアートコミュニケーションズ  
[刊行予定日] 2010年12月1日(水)  
[予定販売価格] 2,500円(税別)

©2010 日本デザイン団体協議会

」

## ■問い合わせ先一覧

- [事業全般] 日本ジュウリーデザイナー協会事務局内D-8事務局  
TEL.03-3523-7344 FAX: 03-3523-7346 E-MAIL sec@jjda.or.jp  
※担当=上田  
[広報・出版] 日本グラフィックデザイナー協会事務局内D-8広報・出版チーム  
TEL.03-5770-7509 FAX. 03-3479-7509 E-MAIL jagda@jagda.org  
※担当=近藤(広報)  
E-MAIL d8\_public\_relations@yahoo.co.jp  
※担当=D-8編集部(出版)  
[関連事業] 日本サインデザイン協会事務局内D-8セミナー/ワークショップ・チーム  
TEL.03-3818-8537 FAX.03-3818-1291 E-MAIL oto@sign.or.jp  
※担当=山口・斉藤  
関連事業の申込方法: 氏名、所属(学校名・会社名・D-8構成団体メンバーは所属団体)、E-MAILアドレスを明記し、上記まで「E-MAIL」にてお送りください。